

つなごう!つなごろう!

コミュニティ

スクール

C・S川上



学校運営協議会「見守り部」

PTA 教育講演会開催

演題 「熱き思いが壁を破る」

～あなたは両足がないバッターにどんなボールを投げますか?～

講師 ^{まきはら} 榎原 ^{じゅんき} 淳幹 氏

【2023年第5回世界身体障害者野球大会(もうひとつのWBCとも呼ばれている)日本代表:副主将】

平成1年、岡山県新見市生まれ。生後10ヶ月の時に交通事故にあい、右手の機能を失う。小学3年生で野球をはじめ、高校時代には岡山県立新見高校軟式野球部で全国制覇を達成。現在は障害者野球チーム「岡山桃太郎」でキャプテンを務めている。2023年の第5回世界身体障害者野球大会に日本代表副主将として選出され、世界一を達成。また、新見第一中学校で国語科教員として教壇に立ち、野球部の顧問。34才。

・「右手」から考えたこと

あなたにもできないことはある。障害がある人にもできないことはある。逆にどちらにもできることだってある。かわいそうという「同情」ではなく、同じなんだなという「共感」で接するということ。

できないことをできるようにするために…。「努力」すること。「工夫」すること。「あきらめない」こと。「助けてもらう」こと。

・大好きな野球から学んだこと

障害者野球は福祉じゃない。真剣勝負である。相手にはカーブボールを投げる。

(実際に児童とキャッチボールをして見せてくださいました。左手にはめたグラブで、ボールを上にはじいている間にグラブを外して落とし、ボールを持って相手に投げる!その速さ取ってから投げるまで0.3秒!)



・「心×技×体×頭=力」置かれた環境に言い訳しない。

何か1つが0になれば、かけ算の答えは「0」になる。自分にできることを考えて一生懸命やっていく。

・教育と野球でふるさとに恩返ししたい。

・使えない右手に想う「ありがとう!」



〜〜〜講演を聴いた保護者・4〜6年児童の感想から〜〜〜

先生の前向きな気持と感謝の気持で生活してこられたことに感動しました。私達には想像のつかない努力をされたと思いますが、さらっとお話される姿に頭が下がります。元気をいっぱいいただきましたので、明日からまた頑張ります。

これからは「かわいそう」ではなく「どんなことが不便かな?」のように、同情ではなく同じ目線で考えたい。

以前に私も、『『かわいそう』は、他人事になっている』と考えたことがありました。槇原さんの話を聴いて、『『本当の優しさ』は、心の底まで分かってもらうこと』だと改めて思いました。その人の事を分かっているつもりでいても、心の底までは、分からないと思います。「その人にとっての優しさ」が、「心の底まで分かってもらうこと」に繋がると思いました。その熱き思いを心に置いて、「本当の優しさ」を考えて行動したいです。たくさんの「思い」や「考え」をいただいたのに、感想を言えなかったことに「後悔」、「申し訳無さ」を感じています。次からは、「伝えてもらったら、伝える」という事を大切にしたいです。

左手しか使わずここまで箸や野球、勉強なども大変だったと思うので体が自由に動かせるのはとてもいいことで幸せなことだと改めてわかりました。

槇原さんは、いろいろなことを考えそれを→「努力」して→努力してもできなかつたら→「工夫」をして自分用の縄跳びなどのモノも開発して、しかも親に右腕を引っ張られて(車外に放り出されそうになる時、右腕をつかんで必死で守ったから)手が動かなくなったけど親に怒ることはなく、逆に親に引っ張ってもらえて生きているから、親には感謝しか無いと言えるのはすごいと思いました。しかも右腕が動かないのを「かわいそう」だと思うのはやめてもらいたいと言ったのが意外でした。同情ではなくて同じ立場なって考えたいと思いました。

「不可能を可能に変える」ことを教えて頂きました。私たち健常者が当たり前に行っていることは当たり前ではないということ。人は一人では生きてはいけず、周りの環境に感謝して生きていかなければならないと思いました。槇原さんの熱い想いが大変胸に刺さりました。

